

## 平成17年十勝管内農業産出額の推計について

平成17年12月20日  
十勝支庁農業振興部

## 推計の前提

本推計は、十勝支庁が独自に行ったものであり、農林水産省帯広統計・情報センターが公表した関係数値と各農業協同組合、ホクレン農業協同組合連合会及び家畜取引市場等の取り扱い実績並びに市場動向等を勘案して試算している。

## 平成17年の概要

## 農業産出額は、過去3番目の2,487億円

今年の農業産出額は、麦類、豆類、てん菜の収量・価格が昨年を下回ったものの、酪農・肉用牛等畜産関係の生産販売が堅調に推移したため、十勝支庁の推計では過去3番目となる2,487億円の見込み。

## (1) 耕種部門

耕種部門では、5月の低温が農作物の初期育成に影響を与えたが、7月中旬以降、平均気温、日照時間とも平年より高く推移したことなどにより、ほぼ平年並みの作柄となった。小麦は、1等麦比率の低下や収穫量の減から、産出額は昨年を下回る見込み。豆類は、大豆が作付面積の増により昨年の産出額を上回る見込みであるが、小豆、菜豆における取引価格の下落により全体としては昨年を下回る見込み。馬鈴しょは、作付面積は増加したものの収穫量の減等により昨年を下回る見込み。てん菜については、作付面積及び収穫量の減等により昨年を下回る見込み。野菜については、キャベツ等葉茎菜類の価格が低迷したことなどにより、昨年を下回る見込み。

耕種部門産出額 1,295億円(対前年比88.1%)[構成比52%]

## (2) 畜産部門

酪農について、生乳生産量は増加しているものの取引価格が低下したことから、産出額は昨年並みにとどまる見込であるが、個体販売については、取引頭数・価格ともに順調に推移したことから、昨年を上回る見込み。これにより、酪農全体では昨年より微増となる見込み。肉用牛は、全体として取引頭数・価格が堅調に推移したため、昨年を上回る見込み。

畜産部門産出額 1,192億円(対前年比101.8%)[構成比48%]

## 推計結果

(単位：億円、%)

	平成17年産推計値		平成16年(統情値)		前年対比		
	産出額	構成比	産出額	構成比	増減額	前年比	
耕種	米	0	0	0	0	± 0	100
	麦類	339	14	383	15	- 44	89
	雑穀・豆類	160	6	197	8	- 37	81
	馬鈴しょ	256	10	269	10	- 13	95
	てん菜	303	12	373	14	- 70	81
	野菜	220	9	231	9	- 11	95
種	果樹花き	5	0	5	0	± 0	100
	その他	12	1	12	0	± 0	100
	小計	1,295	52	1,470	56	- 175	88
畜産	酪農	877	35	870	33	+ 7	101
	生乳	718	29	717	27	+ 1	100
	肉用牛	246	10	234	9	+ 12	105
	豚・鶏	61	3	59	2	+ 2	103
産	その他	8	0	8	0	± 0	100
	小計	1,192	48	1,171	44	+ 21	102
総合計	2,487	100	2,641	100	- 154	94	

注 1) 平成16年の農業産出額は、農林水産統計の概数値による。  
2) 四捨五入の関係で、内訳と小計、総合計は必ずしも一致しない。

## 耕種部門別動向

### 小麦 [作況指数 96]

作付面積は、昨年を1,500ha上回る46,200haであった。

生育は、5月の低温等の影響を受け4~7日遅く推移したことや、降雨等により一部のほ場で倒伏が多く発生した。

このため、単収は昨年より48kg下回る499kg/10aとなり、収穫量では昨年を14,000t下回った。また、一等麦比率が低下したことから産出額は昨年を下回る見込み。

### 豆類

作付面積は、昨年を780ha下回る24,640haであった。

作付面積・収穫量の減、小豆及びいんげんの価格の下落により産出額は昨年を下回る見込み。

#### ・大豆

作付面積は、昨年を1,260ha上回る4,710haであった。

生育は、5月の低温の影響を受けたが、後半は好天に恵まれたために回復し、開花・受粉ともに良好だった。

作付面積の増により収穫量が昨年を上回ると見込まれることから、産出額は昨年を上回る見込み

#### ・小豆

作付面積は、昨年を1,900ha下回る11,900haであった。

生育は、5月の低温の影響を受けたが、後半は好天に恵まれたために回復し、開花・受粉ともに良好だった。

作付面積の減により収穫量が昨年を下回ることや、価格が下落していることなどから、産出額は昨年を下回る見込み。

#### ・いんげん

作付面積は、昨年を340ha下回る8,030haであった。

生育は、5月の低温の影響を受けたが、後半は好天に恵まれたために回復し、開花・受粉ともに良好だった。

作付面積の減により収穫量が昨年を下回ることや、価格が下落していることなどから、産出額は昨年を下回る見込み。

### 雑穀

そばについて、昨年は、上川・空知地方の主産地が台風被害により不作であったため取引価格が高騰していたが、今年は平年並みの取引価格となる見込みであることから、産出額は昨年を下回る見込み。

### 馬鈴しょ [平年対比 97]

作付面積は、昨年を500ha上回る23,100haであった。

生育は、5月の低温の影響を受け平年より2~7日遅く推移したが、後半は好天に恵まれたため、収穫作業は平年より3日早く終了した。

作付面積は増加したものの収穫量が昨年を下回ることや取引価格の減等により、産出額は昨年を下回る見込み。

### てん菜

作付面積は、昨年を270ha下回る29,530haであった。

生育は、移植作業は好天に恵まれたため平年並みで終了したが、5月の低温の影響を受け平年より1~5日遅く推移した。後半は、好天に恵まれたため回復し、根部肥大は平年並みに推移している。

作付面積及び収穫量の減等より産出額は昨年を下回る見込み

### 野菜

野菜は、キャベツ等葉茎菜類の価格が低迷したため、産出額は昨年を下回る見込み。

## 畜産部門別動向

### 酪農

生乳生産は、乳牛飼養頭数の増加などにより生産乳量が増加したものの、道外移出が伸び悩んでいることなどから、昨年並みにとどまる見込み。

個体取引については、取引頭数、取引価格ともに順調に推移したことから、昨年を上回る見込み。

酪農部門全体では昨年より微増となる見込み。

### 肉用牛

肉専用種素牛については、生産頭数の減により取引頭数が減少しているものの、取引価格が堅調に推移したことから、昨年を上回る見込み。

乳用種素牛については、乳用牛飼養頭数の増により取引頭数が増加したことに加え、取引価格も堅調に推移したことから、昨年を上回る見込み。

肉専用種の枝肉価格については、取引価格は堅調に推移したものの、生産頭数の減少により取引頭数が減少したことから、昨年を下回る見込み。

乳用種の枝肉価格については、取引価格、取引頭数ともに堅調に推移したことから、昨年を上回る見込み。

これにより、肉専用種の枝肉部門は減少するものの、肉牛部門全体では昨年を上回る見込み。

### 豚

取引価格は堅調に推移しているものの、生産頭数が減少していることから、産出額は昨年を下回る見込み。

### 鶏

鶏卵及び鶏肉ともに鳥インフルエンザの発生を背景に取引価格が上昇したことから、昨年を上回る見込み。

### その他畜産物

農用馬については、個体価格は上昇しているものの、生産頭数の減少により取引頭数が減少したことから、その他畜産としては、昨年を下回る見込み。